



新中PRIDE

新野中 学校だより2024年(令和6年)6月27日



校庭のパイナップル

(No.6)6月27日号

発行 学校長 岡田 栄司

夏が来ます

6月が終わります。1年の半が終わることになります。あの能登半島沖地震からも半年。改めて備えの大切さを感じるとともに、一日一日を感謝して過ごしたいなと思います。

先日、総体の会場で、体調を崩したことがある知り合いの先生に会いました。「岡田先生、一番大切なのは健康だよ。僕もまさか自分が体調を崩すなんて想像もしなかったからね。」とご助言を頂きました。私も本気で減量しなければ……。いつも冗談でごまかしている自分を恥ずかしく思いました。

写真を見ると、6月もいろいろありましたね。教育実習の先生もお別れです。またいつか一緒に仕事ができると良いなあ。

体操服登校も始まります。蒸し暑い日々が到来しますが、体調管理や熱中症予防をしっかりとしながら7月もがんばりましょう。もうすぐ夏休みです！



実習生評価授業(6月26日)



校則見直し委員会(6月5日)

昨年度に引き続き、生徒が参画し「校則の見直し」に取り組んでいます。この日は生徒会役員が検討・準備してきた項目について、生徒と教員が意見交換を行いました。今後、話し合った内容をもとに、職員会やPTA役員会に図って行く予定です。



令和6年度進学説明会(6月10日)

9校の高等学校等が本校に来てくれました。各学校プレゼンテーションや、動画、パンフレット等をご用意いただき、熱心にご説明いただきました。どの学校も良い学校ですが、自分の力が100%発揮できる学校を見つけ、進路実現に向け努力して欲しいと思います。



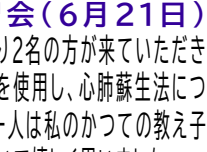
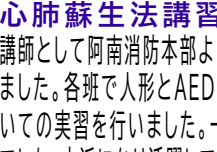
スマホ・ケータイ安全教室(6月7日)

オンラインによる「スマホ・ケータイ安全教室」を実施いたしました。講師の方から、様々な例を提示していただき、仲間と対話しながら、情報技術の上手な活用とリスク、そしてリスクを回避するための工夫やスキルについて学ぶことができました。



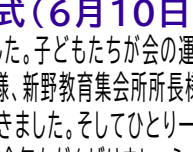
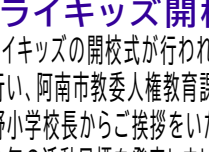
保健体育科研究授業(6月17日)

保健体育科の教員が、フレッシュ研修Ⅱという、研究授業を実施いたしました。走り高跳びの実技を動画で撮影し、助言し合う「アドバイス・タイム」という取組を授業で行いました。授業後は管理職教員と研究会を実施し、授業の振り返りと指導助言を行いました。



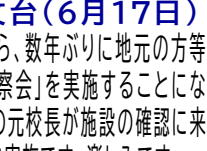
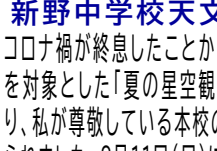
心肺蘇生法講習会(6月21日)

講師として阿南消防本部より2名の方が来ていただきました。各班で人形とAEDを使用し、心肺蘇生法についての実習を行いました。一人は私のかつての教え子でした。立派になり活躍していて嬉しく思いました。



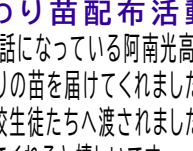
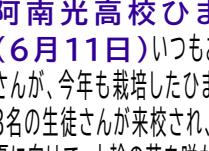
トライキッズ開校式(6月10日)

トライキッズの開校式が行われました。子どもたちが会の運営を行い、阿南市教委人権教育課長様、新野教育集会所所長様、新野小学校長からご挨拶をいただきました。そしてひとり一人が今年の活動目標を発表しました。今年もがんばりましょう。



新野中学校天文台(6月17日)

コロナ禍が終息したことから、数年ぶりに地元の方等を対象とした「夏の星空観察会」を実施することになり、私が尊敬している本校の元校長が施設の確認にられました。8月11日(日)に実施です。楽しみです。



阿南光高校ひまわり苗配布活動(6月11日)

いつもお世話になっている阿南光高校さんが、今年も栽培したひまわりの苗を届けてくれました。3名の生徒さんが来校され、本校生徒たちへ渡されました。夏に向けて、大輪の花を咲かせてくれると嬉しいです。

新野町転入教職員人権研修(6月14日)

本年度も、阿南市人権協議会新野支部長さんと新野隣保館長さんのお二人に講師をお願いしました。この研修は1975年から始まり、約50年の歴史があります。私は昨年に引き続き参加させていただきましたが、今年のお話も、実に興味深く、新野町人権教育の歴史の重さと素晴らしさ、そして先人の方々がどのような思いで子どもたちのために実践してきたかを知ることができました。私たちも中学生と共にこれからも学んでいきたいと思います。



裏面もご覧ください♪カラー版はホームページに掲載しています

校則見直し委員会

学校のブラック化が叫ばれ、若者たちが教員になることを敬遠している状況は、教職という素晴らしい職業を心から愛してきた私のようなものにはとても悲しく感じます。しかしながらこの仕事の素晴らしさを次世代に十分伝えられなかったのだとしたら、これは私たちの責任です。私たちは未来の教員の卵のために、教職の素晴らしさを伝えるとともに、過労死ラインと呼ばれるような職場にならないよう、働き方も改善して行かねばと思っています。

そういう意味では**今年本校に来て頂いている教育実習生には大変期待しています**。彼女は現役大学生ではなく、一定期間個人で英語を指導していた経験をお持ちで、今回教員免許を取得するために実習を行っています。ある程度社会人を経験してから、やはり教員になりたいと思っています。彼女の実習態度は実に前向きで、生徒に対する接し方も落ちついており、英語の知識も豊富です。今後、長年学校現場で活躍してくれると期待しています。

彼女の授業態度は実に前向きで、生徒に対する接し方も落ちついており、英語の知識も豊富です。今後、長年学校現場で活躍してくれると期待しています。

共にがんばりましょう。



堂々とした授業振りでした

ブラックと言えば、近年、ブラック校則という言葉もよく聞くようになりました。合理的な範囲を逸脱している、時代錯誤な校則の存在がマスコミ等にもよく取り上げられています。

本校でも昨年度から、生徒会担当の先生方が中心となり、生徒が参画し、校則の見直しを行なっております。昨年度は生徒会から要望のあった、靴下の色についての規則を改訂すると共に、保護者から防災の視点でご意見をいただいた、校内の上履きについて、安全性を重視した厚底の「上靴」の導入を行いました。

本年度もすでに生徒会担当の教員と生徒会本部役員が、生徒たちからのアンケートをもとに協議し、校則の見直しを図っています。先日は生徒会本部役員と教員による意見交換、「校則見直し委員会」が実施されました。

本年度生徒たちが要望している校則改定のポイントに、**通学用の靴の「色」**のことがあります。現在「白を基調とした運動靴」となっている校則について、他の色も許可して欲しいという意見です。生徒会本部役員から、改定を望む理由が説明されたあと、教員と生徒たちの間で、意見交換が行われました。そして、私にも意見が求められました。

意見を求められた私は生徒にこう尋ねました。

「何か現状の校則で困っていることはあるんですか。」



校則の見直しを進める意義は、不合理な校則をなくしていくことに加え、**校則見直し委員会の様子**生徒たちが自ら改定に参画することで、校則を自分たちのことと捉え、規則を守る大切さを学んでいくことでもあります。校長としては、校則を改善していくことは必要だと思っていますが、改善していくことの意味も学んでほしいと考えており、理由が曖昧であったり、不十分な意見であったら、要望は差し戻してみようかと考えていました。私の意地悪な質問にどう答えるか楽しみに待っていると、しばし沈黙があったあと、生徒たちが自分たちの思いを少しずつ語り始めました。

その中で、私が驚いたのは、2人の生徒が、「**自分で靴を洗っている**」と答えたことです。自分で靴を洗っていると、思った以上に汚れが落ちにくく、母親にどのようにすれば汚れが落ちやすいかを聞きながら洗っていることや、それでも紐の汚れは大変落ちにくいのだということなどを私に教えてくれました。

母が困っているからと言ってくれた人もいましたが、「自分が洗っていてそう感じる」という意見はとても説得力があります。予想していなかった視点でした。本校生徒の人柄と感性に「新中生は、どこに出ても恥ずかしくないな。素晴らしい。」と嬉しく感じました。

この話し合いを受け、職員会議で協議し、PTA本部役員会でもご意見をお聞きする予定です。詳細が決定しましたら、保護者の皆様にもご周知させていただきます。

ご理解ご協力、どうぞよろしくお願いいたします。

